



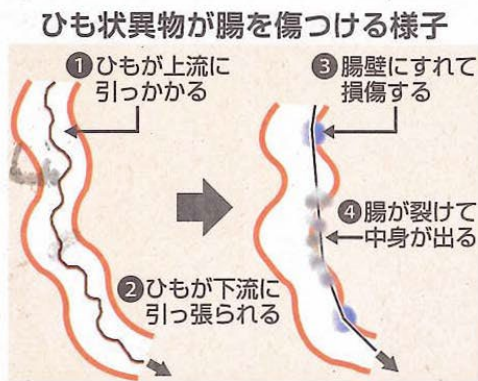
エル動物病院長

(舟橋村)

佐渡 啓樹

ペットが好ましくないものを飲み込んでしまうと異物の誤飲事故は頻繁にあります。毒性のあるものが危険なのは分かりやすいのですが、毒性がなくても危険なものもあります。その中でも特に危険なものが「ひも状異物」です。絹糸、毛糸、釣糸、ゴムひもなど、細くて長いものほど危険度が増します。腸は蠕動運動して食べたものを下流へと移動させようとして、ひもが胃腸の上流で引っかかる。下流側で腸が先へ移動させようとして引っ張るほど引っ張りすぎて

ひも状異物



て糸のこぎりのようになります。これに腸の内壁がこすれると、簡単に裂傷を起し、ひどくなると腸が大きく裂けて穴が開いてしまいます。ひもが長ければ長いほど、あちこちで傷が多発し、腸が穴だらけになります。穴が開けば出血

誤飲したらすぐ受診

するとともに腸の中のおん便が細菌や消化液ごとおなかの中に漏れ出て、腹膜炎、敗血症へと急激に重篤な病状を引き起こします。

ひも状のものを誤飲するのは主に猫です。毛糸などにじゃれつき、口にくわえ、そのまま飲み込んでしまうことがあります。釣りざおのような猫じゃらしも、ひもごと飲み込むことがあります。誤飲しても必ず悪くなるわけではなく、引っかかりさえしなければそのまま出てきます。もし肛門からひもが出て絶対引っ張ってはいけません。一気に腸が引き裂かれてしまうことがあります。

多数の腸の穴をいさぎ、壊死した部分を切り取って腸をつなぎな

おし、おなかの中の汚物を取り除いてきれいに洗浄するという手術は長時間に及び、回復まで長期の入院になります。退院後も長く治療が必要になります。

もし、ひも状のものを誤飲した、あるいは疑わしいとなればすぐに病院に相談しましょう。問題が大きくなる前に取り除く、あるいは排せつすることができれば、短期間で元の生活に戻れます。そして何より予防することが重要。ひも状のものはペットの手の届かない場所に保管し、猫じゃらしで遊ぶ時も目を離さず、必ず片付けるようにして事故を防ぎましょう。

毎月第一土曜掲載